医療DXプロフェッショナル

第8回 富士通が描く、急性期医療の持続可能な未来と患者フローマネジメントの革新

富士通Japan株式会社 竹村さやか

日本の医療現場は今、かつてないほどの変革期を迎えている。複雑な背景を持つ患者の増加、高騰を続ける材料費、さらにこの先には少子高齢化が招く医療の担い手の減少が予想されており、このままでは日本が世界に誇る大切な医療サービスの持続性やそれを支える医療従事者の方々の働く環境が危ぶまれている。

このような状況で私たち富士通は何ができるのか、本稿では、現在進めている取り組みについてご紹介したい。

私たちが取り組む課題の一つが、急性期医療の持続性である。急性期病院が健全であることが、地域を守り日本の医療を守るために重要と考えている。急性期病院は、地域の重症患者を受け入れ、高度な治療を施した上で、適切な期間で地域に返すという重要な役割を担っている。しかし、外来から入院、手術、退院に至るまでの患者フローには、しばしば滞留が発生し、病院経営や医療従事者の業務負荷に影響を及ぼしている。富士通はこの「滞留」を「清流化」することで、患者フローの最適化を図り、病院経営の健全化と医療従事者の働き方改革、さらには患者体験の向上を実現するために、「Healthcare Management Platform」を提供していく。

急性期医療の持続性を支える3つの柱

Healthcare Management Platform は「病院運営において効率性と効果の最大化を実現し日本の急性期医療の持続可能な未来を創造する」をビジョンに掲げている。急性期医療の持続性を支えるために設計された統合ソリューションであり、3つの構成要素から成り立っている。1. ダッシュボードで経営課題を可視化、2.

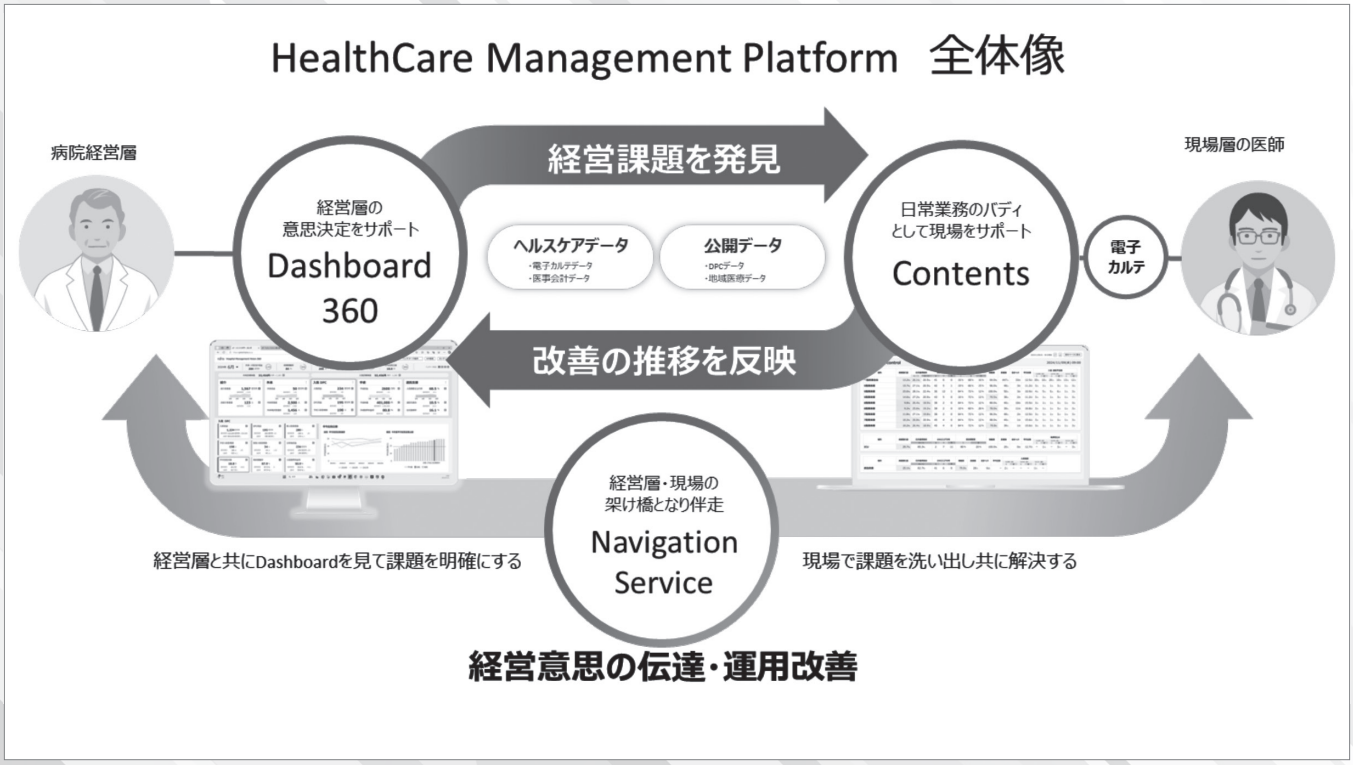

図1 Healthcare Management Platform全体像